

明治ホールディングス株式会社

2026年2月4日

報道関係者各位

「道東から未来の酪農を切り拓く」動画（道東カーボンファーミング研究会制作）が「サステナアワード2025」優秀賞を受賞

明治ホールディングス株式会社（代表取締役社長 CEO：松田 克也）と一般社団法人道東サステナブル農業推進機構※1（代表理事：中山 勝志）が設立した「道東カーボンファーミング研究会」（所在地：北海道別海町 以下、道東 CF 研究会）は、この度、研究会の取り組みを紹介した制作動画「道東から未来の酪農を切り拓く」が「サステナアワード2025」優秀賞を受賞しました。

「サステナアワード2025」は、農林水産省・消費者庁・環境省が連携して実施する食と農林産業に関わるサステナブルな取組動画を表彰するプロジェクトです。

※1 日本の生乳生産を支える道東エリアにて、2018年に地域への SDGs の普及啓発を有志が担う任意団体として設立。



2026年2月2日に開催された授賞式の様子（提供：道東 CF 研究会）

道東 CF 研究会は、生乳生産量が日本一の別海町をフィールドとし、大気中の CO₂を土壤に取り込み、農地の土壤の質を向上させ、温室効果ガスの排出量削減を目指す農法「カーボンファーミング」の評価・研究・実践を推進しています。酪農の現場からカーボンファーミングを試行し、これからの酪農業のあり方を社会に提言していく、地域社会と地域住民、乳業メーカーが連携した日本初の取り組みです。

制作動画「道東から未来の酪農を切り拓く」では、道東CF研究会での土壤の健康度の向上を試みるサステナブルな酪農の実現に向けた取り組みなどを紹介しています。

酪農における課題解決や新しい価値を生み出すための可視化したアプローチ、カーボンファーミングを通じた酪農の未来に対する姿勢などが評価され、この度の優秀賞受賞に至りました。

■受賞動画

「道東から未来の酪農を切り拓く」

(農林水産省公式YouTubeチャンネル：[maffchannel](#))



動画のイメージ

土壤の炭素貯留量への効果の立証には継続的な取り組みが必要です。今後も明治グループは道東CF研究会と連携し、別海町を起点に施肥（せひ）マネジメント^{※2}やカバークロップ^{※3}等の効果の評価・研究・実践を行い、サステナブルな酪農の実現に向けて取り組んでまいります。



現地での土壤調査の様子

※2 作物に必要な栄養素を土壤の状態を把握した上で、その生育状況に合わせて最適な量やタイミングで供給する作業。

※3 被覆作物。土壤浸食を防ぎ土壤中に有機物を加えて土壤改良に役立つ作物。

【参考情報】

- 明治グループ 脱炭素社会に向けた取り組み

https://www.meiji.com/sustainability/harmony/climate_change/

- 道東カーボンファーミング研究会ホームページ

<https://www.carbonfarming.jp/>

以上

MOOOOOORE SUSTAINABILITY は
人・社会・地球の健康の実現に向けた
明治グループのサステナビリティ活動
精神を表しています。

サステナビリティページはこちら↓
<https://www.meiji.com/sustainability/>

**MoOOOOORE
SUSTAINABILITY**